

夢の翼



H 2 7 . 7 . 1 7 (金) [第32号]

“能力の差は小さいが、努力の差は大きい！”

1学期の学習成績を振り返ってみると、成績上位者（平均80点以上）は5名（1学年末8名）でした。この中で、今回“初登場”の2名は、日頃の学習において地道な努力の積み重ねが結果につながったといえるでしょう。2学期以降は、さらに多くの人々が成績上位を目指して奮闘努力して欲しいと思います。“能力の差は小さいが、努力の差は大きい”のです。また、1学期の皆勤者数は、133名でした。今後、この皆勤者数を減らさないようにしましょう。そのためには、日々の生活の基本である『休まず、遅れず、最後まで』を皆さん一人一人が肝に銘じて過ごすことが大切です。卒業後の進路が就職希望の人は言うまでも無く、進学希望者にとっても、『皆勤』は極めて重要な評価となるのです。



☆『振り返り』が大切！～夏休みを、どう過ごすか～

1学期の授業日数は、62日でした。この62日をどう過ごしましたか。毎日の授業や部活動、友達と過ごした時間など、満足できる内容でしたか、振り返ってみましょう。『振り返り』は、成長の原点です。さて、明日から、楽しい夏休みです。皆さんは、この40日以上もある夏休みをどのように過ごす予定ですか。部活動に励む人、課題や課外学習などの勉学に力を入れる人など過ごし方は様々でしょう。そこで、大切なことは、新学期を迎えたとき、「充実した夏休みだった」とか「時間を有効に活用できた」などといった『振り返り』ができるような夏休みを過ごすことです。



☆台湾学②⑥『鄭成功物語Ⅲ』～反清復明と成功大学～

鄭成功は、父が清に降伏した後も廈門、台湾を拠点に抗清運動をつづけ、1661年オランダ人勢力を駆逐して台湾を占領し、台南に本拠を置いて、独自の政権を打ち立てたが、翌年39歳で死去する。鄭成功の死後、その志を受け継いだのは子の鄭經である。鄭經は1681年に父と同じ39歳で亡くなるまで、よく台湾を維持するだけでなく大陸にも進出したが、その後は一族と部下の争いの中で、1683年清の軍門に降り、台湾鄭氏政権は3代23年で終わる。歴史上の鄭成功は、「反清復明」を果たす事無く死去し、台湾との関わりも短期間であったが、台湾独自の政権を打ち立てて台湾開発を促進する基礎を築いたとして、今日では台湾人の精神的支柱（開発始祖=ピルグリム・ファーザーズ（Pilgrim Fathers））として社会的に極めて高い地位を占めている。よって、彼が拠点とした台南には理工系分野の教育と研究で有名な成功大学や市街地の中心走る成功路など鄭成功にちなんで命名されたものも多く、台湾城内に明延平郡王祠として祠られており、毎年4月29日（鄭成功が台湾に上陸した日）に復台記念式典が催されている。

